

八幡工高新聞

発行者：滋賀県立
八幡工業高校新聞部

太郎坊チャレンジ号
ステアクライミング



「太郎坊チャレンジ」開催



379段を駆け上がる挑戦。参加者 前回の1.75倍に

勝運の神様として知られる東近江市の「太郎坊宮」で、10月12日参道の石段を駆け上がるタイムトライアル競技「太郎坊宮チャレンジ」が開催された。今年で2回目を数える本大会には、前回の約1.75倍にのぼる多くの参加者が集結。秋空の下、歴史ある境内にランナーたちの熱気と歓声が響き渡った。

同大会は、全379段の石段を一気に駆け上がる「ステアクライミング（階段垂直マラソン）」の形式で行われた。午前中から始まった競技では、和太鼓奏者の大橋亮介さんによる力強い演奏が響き、参加者たちの闘争心を鼓舞。太鼓の音に合わせて鳥居前をスタートしたランナーたちは、険しい石段を懸命に一歩ずつ踏みしめ、ゴールを目指した。

ゴール地点では、肩で息を切りながらも、

自身の限界に挑みきった達成感に満ちた表情が多く見られた。主催者の今宿さんは「昨年の約1.75倍もの方々に参加いただき、感無量です。特に驚いたのは、参加者の約7割が県外からエントリーだったこと。北海道や福岡といった遠方のもとより、海を越えて台湾からも挑戦者が集まりました」と、大会の広がりを笑顔で振り返った。

大会が大きな盛り上がりを見せる一方で、運営面での新たな目標も見えてきた。今宿さんは「これだけの規模になると、安全確保のためのスタッフ増員が急務。また、遠方の方だけでなく、地元の方々にもより多くの参加してもらえるような工夫を凝らしたい」と、地域密着型のイベントとしての発展に意欲を示す。伝統と豊かな自然が残る太郎坊宮を舞



大会には、初音ミクのコスプレで挑む個性的なランナーの姿もあった。階段垂直マラソン（SJC）に参戦して3年目というこの遠藤直弥さんは「きつくて足にくるが、マラソンと違い回復が早い」と競技の魅力を語る。10年以上前から愛用する衣装は、大好きなキャラクターへの敬意の表れ。身長も同じというこだわりぶりで、険しい石段を駆け上がった。

今年からワンちゃん一緒に走るカテゴリも増え、小型犬から大型犬まで楽しく走っていた。

参加者の中に八工卒業生!!

総合格闘家（OSC）に所属する、八工卒業生の久保田 峻丞くん（右はし）トレーニングをかねてチームで参加した。



台に、自らの体力と気力を試すこの試みは、県内外から注目を集める東近江の新たな名物行事として、今後さらなる注目を集めそうだ。（澤）

競技の開始に合わせ、会場には和太鼓の勇壮な音が響き渡った。その場の熱気に合わせたアドリブでランナーの背中を押し、大会の盛り上げに一役買った。大橋さんは「盛り上げて走者が気持ちを高めて、勢いをつけてもらうことを意識した」と話し、迫力ある音色で境内の雰囲気を一層引き立てていた。



↑ 奏者の大橋亮介さん



地域の方々の声

78歳：男性

地域のイベントとして昨年から行われてたことは知っていたが、こんなに多くの参加者が来ていて驚いた。

56歳：女性

実家に帰ってきたついでに見に来たが、たくさんの方がいて、階段を駆け上がる姿がかっこよかった。来年も開催してほしい。